

一般財団法人市川市福祉公社

平成28年度第2回介護・医療連携推進会議 議事録

1. 日 時： 平成28年9月13日（火） 午前10時00分～午前11：00分
2. 場 所： ザタワーズイースト3F I-link ルーム1
3. 出席者 24 名

[委 員]

議長 藤城 誠一
委員 四ツ屋 真由美
委員 村尾 薫

以上 委員 3名

[オブザーバー]

市川市福祉部福祉政策課 2名
高齢者サポートセンター市川第一 1名
高齢者サポートセンター国分 1名
高齢者サポートセンター八幡 1名
高齢者サポートセンター真間 1名
高齢者サポートセンター国府台 1名
居宅介護支援事業所 1名
大学准教授 1名
訪問介護事業所1 2名
訪問介護事業所2 2名

以上 オブザーバー 13名

[事務局]

常務理事 下川 幸次
事務局次長 今井 真希
訪問介護課長 長尾 容子
当該事業管理者 市川 奈津子
計画作成責任者 阿部 郁子、菅野 友紀、館山 史陽、岩瀬 裕介
以上 事務局 8名

[欠 席]

委員 鈴木 靖成

以上 委員 1名

1.開会

(1) 市川市福祉公社常務理事より挨拶

開会にあたり定期巡回随時対応型訪問介護看護事業の現状を説明

(2) 委員等紹介

事務局より、委員等紹介を行う

2.事務局より資料の説明を行う

(1) サービス提供等状況報告

(2) 定期巡回・随時対応サービス 自己評価・外部評価報告

(3) 自費負担サービスの説明

3.質疑応答

●サービス提供等状況報告について

<四ツ屋委員>

- ・6、7、8月の派遣中止になった利用者は何人なのか？理由は？

<事務局>

- ・入所・ご逝去の方が数名いる。

<村尾委員>

- ・少しずつケースが増えて良かった。ケースのバリエーションがあると、新規獲得の際に役立つ。先日、他の定期巡回の事業所の県の実地指導で、とてもよいケースの報告があった。公社と連携がとれるといいと思う。

●自己評価について

<村尾委員>

- ・定期的なマニュアル等の見直しが必要。勘違いしたり、思い込んだりしている事があると思う。

<藤城議長>

- ・いろいろな評価の中で、良くできていると思う。全て100%望むのは無理で、様々に要望されて、それを100%応えるのは難しい。公社を褒めていいと思う。
- ・ラジオで東京のホスピスのドクターが本人と家族との要望がだいぶ違う。どちらに重点を置いていいか、悩むところと言っていた。一概に“こうしたらいい”と言う事はないと思う。これだけの評価をするのは、大変と感じている。

<四ツ屋委員>

- ・11について、長くかかわっている利用者様の変化を、見逃してしまうことがあるので報告をくださいとお願いをしている。13について、自立支援できていると思う。

<藤城議長>

- ・32の地域のサービスネットワークのところで、民生委員の経験で言うと、利用者の1番近くの人たちと、情報共有できたらいいと思う。1年に数回、まれに、ケアマネジャーやヘルパーか利用者様の様子の報告があるが、民生委員として、複数回訪問して留守だった時があり、後でその方が‘入院している’事が分かった。その事の連絡を頂けると嬉しかった。退院した時など特に連絡が欲しい。地域・自治体と情報共有したいと思う。これは、行政が行う事かもしれない。

<四ツ屋委員>

- ・利用者様から“ヘルパーの訪問があるから、家にいられる”と感謝の言葉を頂いている。

<村尾委員>

- ・とてもいいと思う。

<藤城議長>

- ・よくやっていると思う。

●オブザーバーの方々から

<福祉政策課>

- ・32について、ケースを通して、同じ情報を共有するのがいいと思う。

<高齢者サポートセンター国府台>

- ・夜中に訪問して下さって介護している家族が眠ることが出来ている。このサービスを続けてほしいと思っている。

<居宅介護支援事業所>

- ・民生委員との連携は大事。自分もまだできていない。入退院のことすら、伝えられていない。今後は連携を取って行きたいと思う。

<高齢者サポートセンター真間>

- ・テレビで見たが、このサービスは一般的でない。ケアマネジャーすら知らない人がいる。PRできたらいいと思う。

<高齢者サポートセンター市川第一>

- ・実績報告をみると、需要はある。家族介護には限界があるので、頑張してほしいサービスだと思う。

<大学准教授>

- ・わかっているつもりが一番危険。襟を正していきたい。色々な形でアクセスする工夫が必要。その様な人たちへ周知の仕方を工夫してほしい。32について、どこまでわかって

いてどこまでわかっていないのか？自分たちで分析し把握していけたら良いと思う。

<高齢者サポートセンター八幡>

- ・このようなサービスが地域に必要。相談業務を通じて、アナウンスしたいと思う。

<高齢者サポートセンター国分>

- ・議長がおっしゃったように、ニーズが家族と本人と違う事がある。サービス導入で、安心感を与えることが出来ていると思う。

<訪問介護事業所 1 >

- ・集団指導でも課題は“普及”。事業所との連携を密にとっていきたいと感じた。
- ・評価を拝見して、自分たちも不足していると感じている。看護を併設しているが、タイムリーなサービスが出来ていない。公社と連携を取っていきたい。

<訪問介護事業所 2 >

- ・今期中、サービス始める準備をしている。今年になって、サービスが増加していますが何故か？

<事務局>

- ・夜間と定期巡回のパンフレットを、今まで利用の無かった事業者に配布した結果である。

<訪問介護事業所 2 >

- ・この様なサービスは良いものだ実感している。地域の方々に伝えて行きたい。

4.閉会

閉会にあたり事務局より挨拶

- ・次回介護医療連携推進会議予定 平成 28 年 12 月 13 日（火）

上記の通り、委員の方より頂きました、貴重なご意見をもとに今後とも取り組んでまいります。

長時間にわたり、ありがとうございました。

以上
文責：市川市福祉公社
訪問介護課 巡回係 阿部